
開講科目名：国際経済論研究（4単位）
開設年次：1年 2年
開設学部：会計学研究科博士前期課程会計学専攻
担当者：畑佐 伸英

《授業の概要》

＜授業の目標＞

現在、世界の成長センターとして発展を遂げているアジア経済の状況と動向を理解し、日本企業の対アジア戦略を考えていくことを目標とする。

＜授業の概要＞

まずは、アジア全体として発展の歴史や経済危機の経験を学び、現在の課題となっている、金融市場改革、経済開放、所得格差、環境、科学技術政策、地域経済協力などについて学習する。

続いて、日本企業のアジア進出の状況や、その際に重要となる資金調達と税の問題について概説し、進出企業の事例を取り上げる。

後半は、国別の経済事情やビジネス環境について、アジアの主要な国を取り上げて説明する。この国別の学習の際には、受講者にも担当する国を選んでもらい、各自で調査・学習の上、授業時間中に発表してもらう。

最後の5～6回を利用して、各自で課題を選定し研究した成果についても発表してもらう。

＜授業の内容＞

- 1回 はじめに
- 2回 アジアの経済発展
- 3回 アジア通貨危機
- 4回 金融市場改革
- 5回 経済（貿易・投資）開放
- 6回 所得格差
- 7回 環境問題
- 8回 科学技術政策
- 9回 地域経済協力
- 10回 日本企業のアジア進出
- 11回 資金調達
- 12回 税務
- 13回 海外企業の成功と失敗
- 14回 韓国
- 15回 中国
- 16回 シンガポール
- 17回 マレーシア
- 18回 タイ
- 19回 インドネシア
- 20回 フィリピン
- 21回 ベトナム
- 22回 カンボジア
- 23回 ミャンマー
- 24回 インド
- 25回 課題発表 1
- 26回 課題発表 2
- 27回 課題発表 3
- 28回 課題発表 4
- 29回 課題発表 5
- 30回 おわりに

<評価方法>

授業に対する貢献度（20％）と2回の課題発表（各40％で計80％）を勘案して評価する。

《テキスト》

特定のテキストは利用しないが、以下の参考書を読誦しておくことが期待される。

《参考書》

アジア経済論（ミネルヴァ書房）

アジア開発経済論（文真堂）

アジア経済発展論（文真堂）

中堅・中小企業のアジア進出ガイドブック（中央経済社）

アジア進出ハンドブック（東洋経済新報社）